

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
臨床研究センター先進医療研究開発部長募集要項

1. 職名及び人数

臨床研究センター 先進医療研究開発部長 1名

2. 公募の概要

国立病院機構では平成17年度より新たな研究業績評価が開始され、当院は1-2位を獲得している。この業績評価は、治験、臨床研究プロトコール作成、特許の取得、競争的研究費の獲得、論文著書、国内外の学会発表などの総合力で分析される。現在国立病院機構には10の臨床研究センターが設置されているが、当院はその業績を認められ、平成20年度より臨床研究部から臨床研究センターへランクアップとなった。現在、先進医療研究開発部、エイズ先端医療研究部、EBM研究開発部、臨床研究推進部の4部があり、研究室は12室となっている。先進医療研究開発部には3つの研究室があるが、部長として1)各研究室を統括し、それぞれの分野における研究推進とさらなる業績向上を図ること、2)全国規模の先進医療研究を立案・主導すること、3)併任業務として診療部門に寄与すること、が求められる。未来の医療に貢献できる、基礎ならびに臨床研究の推進は極めて重要であり、競争的研究費を獲得できるような高いレベルの医学研究を推進できる人材を求めたい。

3. 応募資格

原則として、臨床研究歴10年以上を有する医師

4. 服務・処遇

独立行政法人国立病院機構就業規則 及び
独立行政法人国立病院機構職員給与規程による

5. 採用年月日

平成30年 1月 1日(予定)

6. 提出書類

- 1) 履歴書(写真貼付、様式指定)
- 2) 推薦状(様式任意)※原則として所属の長によるもの
- 3) 医師免許証、大学の卒業証明書(写)、専門医認定証(写)
- 4) 研究業績目録(欧文原著、欧文総説、欧文著書、和文原著、和文総説、和文著書に分ける。著者名は全員を挙げ、本人名に下線を引く。)

- 5) 主要論文10編(各編の成果・意義について400字以内の説明文と論文のコピーを添付する)
- 6) 主要研究助成金リスト(過去5年間に受けた厚生労働省、文部科学省、民間団体等の研究助成金)
- 7) これまでの臨床研究、臨床試験・治験に関する実績、研究・教育の経過、ならびにその特色(3000字程度)
- 8) 将来の抱負(2000字程度)

上記書類を各3部ずつ(2部はコピーでも可)提出すること。

7. 選考方法

当院先進医療研究開発部長選考委員会にて、審議及び選考を行う。

8. 提出期限及び提出先

提出期限 平成29年 10月 6日(金)

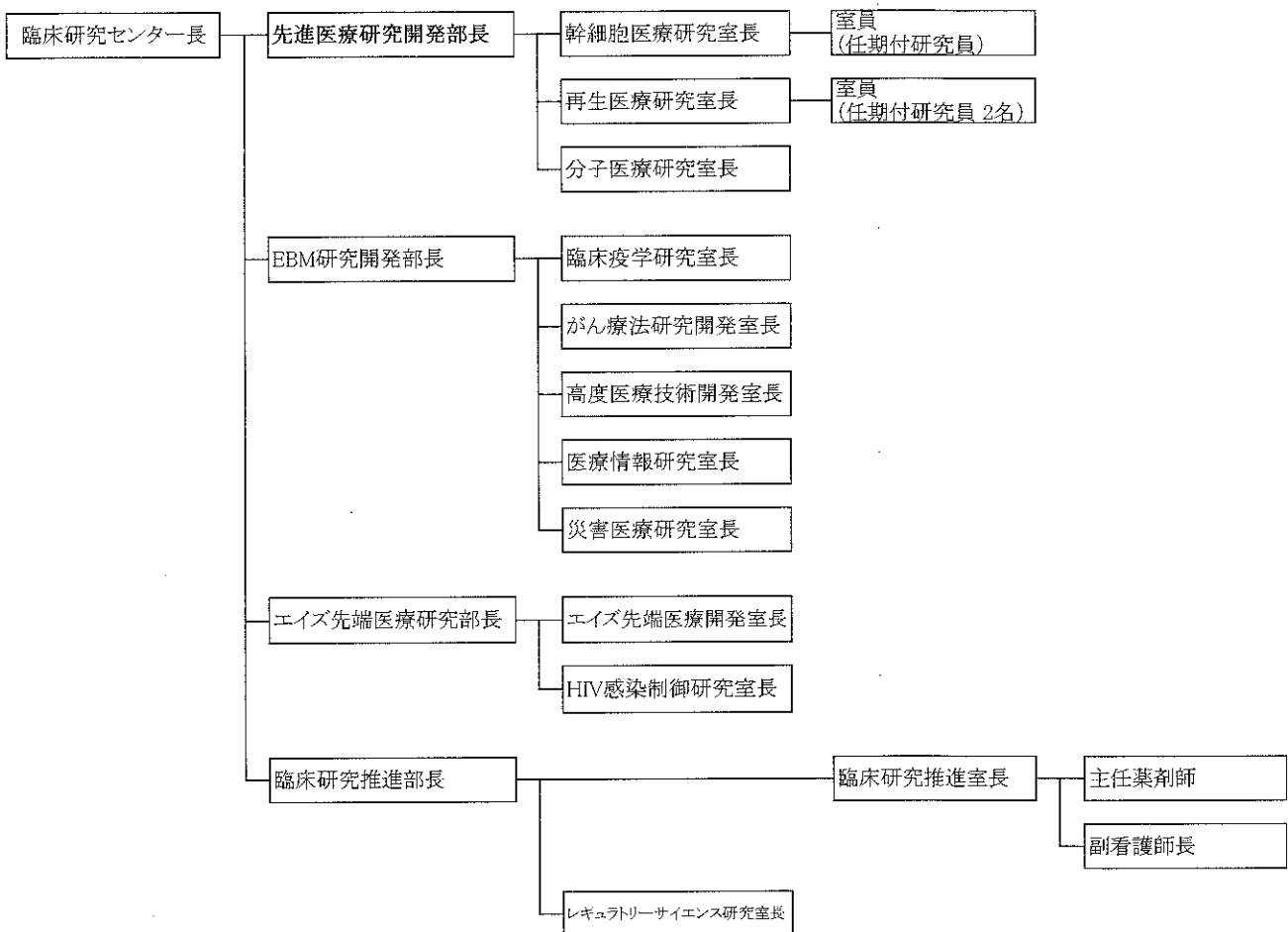
送付先 〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14
独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 管理課給与係

応募書類の封筒には「臨床研究センター先進医療研究開発部長応募書類在中」と朱書きのうえ、簡易書留等配達記録のわかるものにて郵送のこと。

別紙2

平成29年9月1日現在

独立行政法人国立病院機構
大阪医療センター 臨床研究センターの組織体制図



別紙3（先進医療研究開発部の概要について）

先進医療研究開発部

幹細胞医療研究室

幹細胞医療研究室では、各種検体よりヒト iPS 細胞（人工多機能幹細胞）の作成・樹立を行い、再生医療の実現化に向けた技術開発を中心とした研究を実施している。iPS 細胞の作成に最適な細胞ソースの探索と作成方法の改良、作成した iPS 細胞の品質評価法について検討を行うとともに、iPS 細胞から効率的に臨床グレードの神経幹細胞へと誘導する方法の開発を進めている。また、神経疾患患者由来 iPS 細胞の樹立とそれを応用した神経疾患の病態解明研究に取り組んでいる。

再生医療研究室

再生医療研究室では、各種幹細胞および免疫細胞等のヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行っている。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施する。更に、主に悪性脳腫瘍を対象に、分子診断体制の構築と遺伝子診断法の標準化に取り組んでいる。

分子医療研究室

分子医療研究室の主な研究課題は、難治性脳形成障害症の胎児診断における診断基準の作成と、患者由来検体の収集とその遺伝子解析及び臨床像解析の他施設共同研究の体制強化である。分子遺伝子学的研究は、これまでの方法に加えてアレイ CGH を用いて網羅的な遺伝子解析の方法を用いた検索を開始し、慶應大学遺伝センターと共同研究を行っている。